



543
I
3
12-7

東のつらみ又堪能の先達おれは下て
毎に各舟のゆるね揃おれ堪能先
達之各款とある處一やいつる方切
教なり古今遠きを論おれりや三つ
とつらみとあるは本年今にりる處
まにかりたまき意おのる首にりる
ぬる舟は風舟なり車なりをさ
つら風の風舟なりたれまき意おれ

車ありつらみとあるは風舟のつら
りる舟はなる中今七首なり
中今やまき意おのる首にりる
まき意おのる首にりる
りる舟はなる中今七首なり
すまき意おのる首にりる
村の舟はなる中今七首なり
舟はなる中今七首なり

定由録吟よくらりのひたんと同様に
一とあるをいふやと申すは一は詩に
いふ心おける也

樂代々人所詠も心詞雖一も謹可除并之
下の書に七十年以来之人歌所詠
心詞皆不可不用之也其の詞とて嵐
たかすしういふいふも其の詞とて
やのよも其の七十年也と申すは

かゝる遠深四年に拾遺五草と撰
録の事とていふも其の詞とて嵐
天治大治の事とていふも其の詞とて嵐
於古人歌其多以て同詞詠之とて流例に
詞は別して詠まは儀あり

但取古事詠新事五十年及て古事願
て分無事詠之とていふも其の詞とて嵐
ある事及て古事詠之者も儀あり

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, written on the right page of an open book. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, flowing from right to left. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, written on the left page of an open book. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, flowing from right to left. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

花の月なごころなる事いづくは事し物
心の未達の事いづくは事し物
然れ何事の人の事いづくは事し物
留香亭詠恋離亭以恋離亭詠香亭
如は之時無に古亭離秋はたはたの秋宿の
梅をいづくは事し物いづくは事し物
あなごころの事いづくは事し物
うはごころの事いづくは事し物

らなごころの事いづくは事し物
なごころの事いづくは事し物
あなごころの事いづくは事し物
是ごころの事いづくは事し物
いづくは事し物いづくは事し物
の事いづくは事し物
秋ごころの事いづくは事し物
あなごころの事いづくは事し物

心をなやませし事なるは心なるに心持あり
おのれは心なるに心持あり心持あり心
事なるに心持あり心持あり心持あり心
なるに心持あり心持あり心持あり心
なるに心持あり心持あり心持あり心
なるに心持あり心持あり心持あり心
なるに心持あり心持あり心持あり心
なるに心持あり心持あり心持あり心

ちかきなるに心持あり心持あり心持あり
行事に心持あり心持あり心持あり心
のちかきなるに心持あり心持あり心
と心持あり心持あり心持あり心
心持あり心持あり心持あり心持あり心
心持あり心持あり心持あり心持あり心
心持あり心持あり心持あり心持あり心
心持あり心持あり心持あり心持あり心
心持あり心持あり心持あり心持あり心
心持あり心持あり心持あり心持あり心

の月日は非成住壞空切とはありて
あけ理とある色にありてあるの業
うらふうこころのうらむまはたうも
きくは事や又白文文集より一才二惜
いつは長恨事と題題行ある事より衆
天の文のすめりてあると最ありて
世のありは和の心と海にありて
常有握観やはた名越はありてあり

のありて物ありてありてありてあり
道は彼名のありてありてありてあり
そのありてありてありてありてあり
海はありてありてありてありてあり
やありてありてありてありてあり
そのありてありてありてありてあり
和歌法師のありてありてありてあり
詞はありてありてありてありてあり

ふり知るの大方すれども、いふに、
以爲るや、たゞは、
あは、
代集、
師道、
この、
あ、
也、

秀歌集新大略

は大略といふは、
あ、
る、
あ、
春、
い、

なほ首の巻頭と結びし以下皆後の
周折なりといふを尤可為多の軌範
あり

九州大學圖書印

酒家新園
為之
森
茂